

効果検証プロジェクト Q & A

Q1. これまでにプロジェクト以外の方が研究に従事されているように思いましたが、どのような経緯でしょうか？

A. これまでは（現在含む）、東大附属パネル調査に関わる関係者（WG、教育学研究科・附属学校・学校教育高度化・効果検証センターの教員、特任研究員、協力研究員、教育学研究科の院生など）が研究に従事してきました。一方で、効果検証を進めるに際し、十分な分析協力者がいなかったため、昨年度より教育学研究科院生を対象として、効果検証部門のプロジェクトを開設しました。

なお、今回申請された研究計画が不採用となった場合には、謝金をお渡しすることはできませんが、教育学研究科教員の指導（プロジェクトに関わるデータは大学院生が筆頭で申請は不可能）のもとで研究を行うことは可能です。しかし、これまでの研究状況も踏まえれば、東大附属パネル調査に関わる教員の指導のもとでなければ、システム上の問題もあり、研究を遂行することは厳しいと考えます。

当プロジェクト不採用の場合や何かしらの事情で今回のプロジェクトには応募ができないが、東大附属パネル調査のデータを使用した研究を希望する場合には、一度ご相談していただければと思います。

Q2. 東大附属パネル調査のデータに関連する研究業績はどこをみればよろしいでしょうか？

A. 弊センターのホームページにアップされております。

- ・ https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/research_products/
- ・ https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/db_wp/
- ・ <https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/db/sympo/>（シンポジウム報告書）

Q3. 調査票はどちらから確認できますか？

A. 以下のページより調査項目をご覧くださいので、申請書作成の際には必ず確認の上、分析項目を記載してください。

・ https://www.schoolexcellence.p.u-tokyo.ac.jp/db/stud_survey/

Q4. 今回の分析で利用可能なのは調査票で示された項目の回答結果のみでしょうか？それとも、分析に必要な場合には調査票にない情報なども提供されることはあるのでしょうか？

A. 現在のところ、分析可能な項目は調査票（在校生・卒業生パネル調査）に記載ある項目の回答結果のみとなります。

Q5. 今回のプロジェクトで使用できるデータは出席番号や氏名等によって継続的調査を行うことが可能という理解でよろしいでしょうか？

A. 皆さまに提供するデータには、氏名、学籍番号など個人を特定可能な情報は含まれていませんが、個人にユニークな（ランダム変数の）ID を割り当ててありますので、これを使って経時変化を追跡することが可能となります。

Q6. 他の研究費申請等においてセンター研究紀要を記載する際、センター研究紀要の査読の有無はどのようになるのでしょうか？

A. 弊センター研究紀要の論文種別は査読無しとなります。

Q7. 今回の研究は、倫理審査は必要でしょうか？

A. 東大附属パネル調査はすでに倫理審査を受け承認を得ているため、データを使用するにあたり、追加で倫理審査を申請する必要はありません。

Q8. 他センタープロジェクト（高度化部門も含む）との重複支給について、改めて詳細を教えてください。

A. 他センタープロジェクトとの重複支給は不可となります。例えば、弊センターの院生プロジェクトに採用された場合には、残念ながらこちらのプロジェクトには応募することができません。

また SPRING GX 採用者は、1 か月の報酬受給額の上限が 28 万円とされており、SPRING GX からの奨励金が 18 万円のため、その他（TA、OCJ 等）の報酬受給額の上限は 10 万円となります。SPRING GX に採用されている院生は、TA 等と合わせた受給額が月額 10 万円以内であれば、オンキャンパスジョブを行うことが可能とのことです（学生支援チームに確認済み）。

なお、当プロジェクトではオンキャンパスジョブより謝金をお渡しすることを予定しているため、SPRING GX 採用者は、上記の上限額をご理解いただいたうえで、ご応募ください。また、ご応募いただいた際、すでに博士課程学生支援を受けているため、そうした支援を受けていない学生さんを優先的に採用する可能性があることも、ご理解ください。